

全てを背負って

広島県

広島己斐道場

中学2年 井上 あかり

みなさんはものすごいプレッシャーと緊張を感じたことはありますか？

私は、先鋒として、広島県中学校選手権大会に出場しました。厳しい場面はたくさんあったけど、それでも五人で繋いで決勝戦まで辿り着きました。試合前に円陣を組んで「絶対全中に行くぞ」と大将のかけ声を聞いた瞬間、電流が走ったかのように体中、とてつもない緊張に包まれました。同時に

「負けたらどうしよう。」

と思いました。そんな思いで決勝戦が始まりました。今思うと、審判の声と同時に立ち上がった私は、この時点ですでに気持ちで負けていたのだと思います。避ける、避ける、避ける。自分が打った本数よりも相手の打った本数の方がはるかに上でした。そして、見事にコテを決められ、先鋒の役目を果たせないまま、試合終了のホイッスルが会場に響き渡りました。そのまま、相手チームの勢いに流され、私達の中学校は全中に行けませんでした。

私は、試合が終わってから、いろいろな事を考えました。「もしも、相手が違ったら勝っていたかも知れない」と考えたこともありました。負けてしまったのは私の努力不足と心の底では理解できていても理解したくなかったのです。私の努力不足で全中に行くために頑張ってきた大変な稽古、その度に送り迎えをしてくれた親の苦勞、仲間や教えてくれた先生の思い、この全てを裏切ってしまったからです。負けてしまった理由を自分の努力不足以外にしてしまう、そんな自分がすごく情けなかったです。けれど、私が一番考えたのは、

「自分が負けていなかったら。」

ということです。私が負けていなかったら次鋒は安心して戦えたかもしれない、そうしたら中堅はもっと余裕をもって勝負できたかもしれない、副将はそのまま勝って、大将はすでにチームが負けた状態で勝負しないで済んだかもしれない。しかし、私が考えていることは予想でしかないのです。そんな私に仲間は「これだけ努力したんだから結果を受け止めよう」と言ってくれました。でも、私のやってきた努力は「これだけやってきた」に値するものではありませんでした。そんな適度の努力で満足していたことが何よりも悔しいです。

練習試合や部内戦で強い人はいると思います。でも、一番強いのは最後まで自分の努力を信じ、大切な大会で結果を残せた人です。

「自分はこれだけやったんだ。」

と思える人こそ、一番になることができる人だと思います。私は、最後まで自分を信じることのできる努力をしていきたいです。それが今回の大会を通して感じた「努力」だからです。

これからも、決勝戦で負けたことは忘れられないと思います。むしろ、忘れたくないです。今回の結果を「ただ負けた」ということで終わらせたくないからです。私は、もう一度全中を目指します。それは、仲間のため、先生、親、私を支えてくれた、たくさんの人のためです。もう後悔はしません。そのために大切な場面で自分に負けない努力を続けます。